

共存できる「獣がい」対策は

篠山東雲高 20人が学び議論

野生動物と人間が共存しながら農作物被害を減らしていく「獣がい」対策」についての講座が28日、丹波篠山市福住の県立篠山東雲高校で開かれた。2年生約20人が専門家から学び、



獣がい対策をどうすればよいか専門家と考える生徒たち＝丹波篠山市福住

域が元気になり、人と動物が共存できる獣がい対策が大事と説明。同校の生徒も参加している同市内での取り組みを紹介し、どんなことができるか若者の視点で考えて欲しいと呼びかけた。

生徒は四つの班に分かれて議論。「木にイルミネーションをして人が集まるようにすれば動物が来なくなるのでは」「畑においをつけて動物が近寄らないようにできないか」などの案が出た。

准教授は「農業をやっている生徒だからそのアイデアがあった。これをきっかけに獣がい対策の活動にもぜひ参加してほしい」と話していた。(前田智)

朝日新聞

2022年1月29日